

2025 年度(第 16 期) 事業報告

2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

公益財団法人 日本バレーボール協会
(Japan Volleyball Association)

目 次

1. 事業方針・重点実施項目	3
（1）重点実施項目に対する取り組みの概要	3
（2）2025年度の課題と今後の目標	4
2. 事業活動報告	5
2-1. 代表強化「世界と戦う強く、応援される代表チーム作り」	5
2-1-1. 競技力向上事業及び競技力向上に係る国際大会派遣事業（バレーボール）	5
（1）各カテゴリー日本代表チームの選手育成・強化および国際派遣事業（男子）	5
（2）各カテゴリー日本代表チームの選手育成・強化および国際派遣事業（女子）	7
2-1-2. 競技力向上事業及び競技力向上に係る国際大会派遣事業（ビーチバレーボール）	10
2-1-3. 国際大会開催事業	11
（1）バレーボールネーションズリーグ 2025 女子大会	11
（2）バレーボールネーションズリーグ 2025 男子大会	12
（3）2025 バレーボール男子世界選手権壮行試合 日本対ブルガリア	12
（4）2025 バレーボール男子世界選手権壮行試合 日本対イタリア	12
2-1-4. 競技力向上にかかわるバレーボール技術・戦術の調査研究及びスポーツ医・科学の調査 研究事業	12
（1）日本代表選手の科学的測定評価、測定結果に基づくトレーニング処方 of 立案とサポート	12
（2）日本代表チームとの対戦が想定される外国チームの戦力掌握	12
（3）トレーナーおよびアナリストの育成と教育及び日本代表チームへの帯同と日本代表チーム が利用する機材およびデータの管理・運用	12
（4）日本代表チームにドクターを派遣し、歯科・整形外科診断を中心に選手の健康維持、怪我 防止及び傷害発生時の対処、薬剤の手配	12
（5）アンチ・ドーピングの啓発を含むスポーツ・インテグリティの向上を図る	12
（6）感染症専門ドクターの示唆、感染症対策の実施と安心・安全なトレーニング環境を創る	12
2-1-5. 将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業	12
（1）全国小学生・中学生・高校生長身選手の発掘育成事業	12
2-1-6. 競技・練習環境の整備、情報発信	13
（1）味の素ナショナルトレーニングセンター バレーボール専用コート設備	13
（2）川崎マリエンビーチバレーボールコート設備	14
（3）ビーチバレーボールアスナビ	14
2-2. 競技普及「競技に携わる多くの仲間とのつながり拡大」	14
2-2-1. 競技人口拡大のための重点施策	14
（1）競技会開催事業	14
（2）指導者養成事業	17
（3）審判員養成事業	18

(4) 競技者拡大事業	20
(5) 医事関連事業	21
2-3. マーケティング「ファンや企業の皆様へ向けた新たな価値の発掘・提供」	22
2-3-1. 新たな価値を創造するための重点施策	22
(1) 代表ユニフォームや大会看板以外の商材開発	22
(2) 新しい競技イメージの構築	22
(3) マーケティング機会の創出	22
(4) ファンマーケティングの拡大	22
2-4. 社会貢献「豊かな社会の実現に向けた貢献活動」	22
2-4-1. 豊かな社会の実現に貢献するための重点事業	22
(1) SDGs 関連事業（国連グローバル・コンパクト関連事業）	22
(2) アジア貢献、国際交流事業	23
(3) 災害復興支援事業	23
(4) 環境保護活動	23
2-5. 組織運営「組織改革による、誠実で信頼される組織運営と全国ネットワークの連携強化」	24
2-5-1. 成長の推進力となる組織運営の実現に向けた重点事業	24
(1) ガバナンス関連事業	24
(2) 人財開発関連事業	24
(3) マネージメント関連事業	25

重点実施項目に対する取り組みの概要

- 1) -1 4年後の2028年ロサンゼルスオリンピックに向けて、バレーボール・ビーチバレーボールともに世界レベルでの情報収集と分析を行い、一貫性と継続性を兼ね備えた強化戦略を策定し、データを活用して科学的見地に立った代表強化をスタートさせる。新たに発足したSVリーグも代表強化には欠かせない要素であり、積極的な連携を図る。
→4年後の2028年ロサンゼルスオリンピックに向けて、バレーボール・ビーチバレーボールともに世界レベルでの情報収集と分析を行い、一貫性と継続性を兼ね備えた強化戦略を策定し、データを活用して科学的見地に立った代表強化をスタートさせた。その強化を推進していくうえで中心となっているのが昨年設立した技術委員会であり、毎月1回の会議開催を原則とし結果、様々な意見を代表強化に適時反映できるようになった。
- 1) -2 代表選手がやりがいと誇りをもってトレーニングに勤しみ、最高のパフォーマンスを発揮できる環境を提供する。
→海外遠征時の移動などを改善した。
- 1) -3 ファンや社会との積極的な交流を通じて日本や世界から高い関心を集め、代表チームが応援される機運を醸成する。
→ファンクラブ会員とのイベントや各地での公開練習や壮行試合を実施し、多くの方々との触れ合う機会が提供できた。2025年度は男子チームのみとなったが、2026年度については女子チームの開催も予定されている。
※2025年度実績（公開練習：鹿児島県・沖縄県／壮行試合：東京都・千葉県）
- 2) 競技人口拡大のために、競技スポーツ・生涯スポーツ双方の面から愛好者を含む競技者のニーズに合う活動環境を整備する。また、各種大会への参加や情報提供を確実に届けるために、登録制度の改定や登録システムの改修を行う。
→登録料含む登録制度の刷新を行った上でMRS登録システムを約20年ぶりに新システムへの移行を実施し、個人の選手歴や指導者・審判員の資格管理を行える仕組みを備えた。また、大会参加だけでなくイベント、講習会の参加などの情報が広く伝達でき、参加しやすい環境を整えた。
活動環境の整備は競技会の見直しに一部着手した程度に留まった。部活動の地域展開や少子化等、社会の動きも注視しつつ次年度には競技者のニーズを調査し、魅力ある場を提供できるよう事業見直しを進めていく。
- 3) -1 代表ユニフォームや大会看板以外の商材開発
→日本代表選手の肖像を活用しての積極的なプロモーション及びマーチャンダイジングを進めた。
- 3) -2 新しい競技イメージの構築
→SVリーグとの連携から端を発して、新たなパートナー契約を結んだ他、天皇杯皇后杯のイメージのリニューアルを図るために、リブランディングに着手した。
- 3) -3 マーケティング機会の創出
→代表チームの強化スケジュールを調整した中で、親善試合、公開練習、紅白戦を行い、協賛企業も増えた上、既存協賛企業の露出の機会を増やした。
- 3) -4 ファンマーケティングの拡大
→親善試合、公開練習、紅白戦およびファンイベント等も行い、バレーボールファンの拡大と維持を図った。

- 4) 「つなぐ力」が生み出す価値を社会貢献に関する具体的なアクションに結び付け、インドア・ビーチ及び各事業において実践する。
- つなぐスクールは全国展開の第一歩となる山梨県・青森県・福井県での開催が実現できた。しかし、その他の施策については既存の活動を継続する程度に留まった。今後はつなぐスクールの全国各地への展開ができるよう、パッケージ化を進めていく。また、環境委員会から発展させた社会貢献委員会で競技特性を活かした施策案の協議を行うことができたため、施策の見直しや優先度付けを行ったうえで実行に移せるよう取り組んでいく。
- 5) -1 多くのステークホルダーから信頼感と期待感を寄せられる透明で誠実な組織運営を自らが実践し、加盟団体にも波及させていくことで競技発展に資する組織体制を整える。
- 過去事例における業務上の課題が新たに明らかになった。これまで改善してきた業務ルールの徹底に加え、課題となる事項の再発防止に継続的に取り組んでいく。次年度に向けては業務の管理のみならず効率化を図るために業務の可視化を行い、コンプライアンス・ガバナンスの強化に取り組む。
- 5) -2 都道府県バレーボール協会の法人化に向けた説明会を継続的に開催し、支援策等の合意形成を図りながら法人化を推進する。
- 都道府県の法人化は進行しているため、法人化後の安定した運営に向けた情報提供や意見交換を行い、バレーボール界全体での透明性と安定性の確保およびガバナンス体制の構築に取り組んでいく。

2025年度の課題と今後の目標

1. 2025年度に策定した規範やガイドライン等を含め、本会の規程類・ルールを周知徹底することで、バレーボール界のコンプライアンス・ガバナンスを強化する。
2. 社会貢献活動について競技特性を活かした活動案の洗い出しは行ったため、さらに案を精査したうえで優先度付けを行い、2026年度には実行に移していく。
3. MRSは新システムへの移行を完了したが、引き続き新登録制度の定着を図っていく。
4. 事務局体制の強化
 - ・管理会計システムの導入は実現したが精度に改善の余地があるため、内容の精査や予算管理の精度向上を目指す。また戦略的な予算配分を実行する経営判断プロセスを定着させていく。
 - ・限られた経営資源で効果的な事業運営を行うための事業見直しが部分的な実施に留まった。優先度・重要度・費用対効果などを踏まえた事業の見直しを徹底する。また業務効率化を常に念頭に置き、業務を可視化することで連携のとれた運営を図っていく。
 - ・職員のマルチタスク化が不十分に終わった。事務局内の連携強化に向けてマルチタスク化等の具体策を再考し、実行に移していく。

2. 事業活動報告

2-1. 代表強化「世界と戦う強く、応援される代表チーム作り」

2-1-1. 競技力向上事業及び競技力向上に係る国際大会派遣事業（バレーボール）

(1) 各カテゴリー日本代表チームの選手育成・強化および国際派遣事業（男子）

A：日本代表（フル代表）

2025年度より、2028ロサンゼルスオリンピックに向けた4年間がスタートとなり、2024-25 大同生命 SV. LEAGUE が5月第1週まで行われるため、第2週より新監督・新スタッフのもと日本代表活動を始動した。5月から選考を含む強化合宿を実施、6～7月のバレーボールネーションズリーグ（VNL）に向けて新チームを作り上げていった。

事業名(期間)	場所
バレーボールネーションズリーグ男子第1週(6/8-6/16)	中国（西安）
バレーボールネーションズリーグ男子第2週(6/20-7/1)	ブルガリア（ブルガス）
バレーボールネーションズリーグ男子第3週(7/28-8/4)	日本（千葉県千葉市）
バレーボールネーションズリーグ男子ファイナルラウンド(7/28-8/4)	中国（寧波）

9月は国内で強化合宿・親善試合（イタリア、ブルガリア）を行い、世界選手権に向けて、VNL で出た課題の修正に取り組んだ。世界選手権では前回2022年のベスト16以上を目指しメダル獲得を目標としたが、予選プール戦敗退となり23位となった

事業名(期間)	場所
男子世界選手権（9/10-9/29）	フィリピン

国内・海外合宿

B代表のカタール遠征も含めて、A, B代表の合宿を並行して実施した。

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
250512 男子 JPN 合宿 (NTC) (5/12-6/8)	NTC	26 泊	27 日	20 名	44 名
250617 男子 JPN 合宿 (NTC) (6/17-6/19)	NTC	2 泊	3 日	12 名	19 名
250704 男子 JPN 合宿 (沖縄) (7/4-7/13)	沖縄	9 泊	10 日	16 名	13 名
250722 男子 JPN 合宿 (NTC) (7/22-7/27)	NTC	6 泊	7 日	10 名	14 名
250811 男子 JPN 合宿 (国内) (8/11-8/22)	薩摩/NTC	29 泊	30 日	15 名	17 名
250605 男子 JPNB 合宿 (カタール) (6/5-6/13)	カタール	8 泊	9 日	14 名	6 名
250701 男子 JPNB 合宿 (NTC) (6/21-7/7)	愛知/NTC/岩手	16 泊	17 日	8 名	32 名

B:ユニバ日本代表

7月にドイツで行われたワールドユニバーシティゲームズ (WUCG) に向けて選手強化を図り、大会結果は4位で終えた。

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
男子 WUG (ドイツ) (7/13-7/27[試合:7/16-7/24])※事前合宿あり	ドイツ	25泊	26日	11名	11名
男子ユニバ日本代表東西大学合同強化合宿 (10/30-11/3)	ヨーロッパ	4泊	5日	17名	34名
男子 JPN ユニバ若手有望合宿 (12/15-12/17)	NTC	2泊	3日	11名	17名
男子ユニバ日本代表 合宿(2/24-3/1)	NTC	5泊	6日	10名	20名

C: U20/210 日本代表

2024年のU20アジア選手権で3位に入り出場権を獲得したU21世界選手権大会に向け、5月に選手選考、7月に大会直前合宿を行い、チームの強化を図った。U21世界選手権のU21世界選手権大会の最終結果は11位で大会を終えた。

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
男子 U20/U21 日本代表 合宿 (5/2-5/6)	大阪	4泊	5日	7名	15名
男子 U20/U21 日本代表 合宿 (7/2-7/6)	愛知	4泊	5日	7名	12名
男子 U20/U21 日本代表 合宿 (8/9-8/14)	愛知	5泊	6日	15名	12名
男子 U21 世界選手権大会 (8/15-9/1)	中国	18泊	19日	15名	12名

D: U18/U19 日本代表

2024年のU18アジア選手権で4位に入り出場権を獲得したU19世界選手権大会に向け、5月～6月に選手選考、7月に大会直前合宿を行い、チームの強化を図った。U19世界選手権での最終成績は16位となった。

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
男子 U19 日本代表 合宿 (4/21-4/24)	静岡	3泊	4日	6名	19名
男子 U19 日本代表 合宿 (6/29-7/3)	大阪	4泊	5日	11名	12名
男子 U19 世界選手権大会 (試合:7/12-8/3[7/16-8/5]) ※事前合宿あり	ウズベキスタン	24泊	25日	7名	12名

男子 U18 日本代表 合宿 (11/30-12/4) ※2026 年大会に向けて	薩摩	4 泊	5 日	6 名	24 名
男子 U18 日本代表 合宿 (2/14-2/18)	NTC	3 泊	4 日	7 名	24 名
男子 U18 日本代表 合宿 (3/17-3/21)	東京	4 泊	5 日	5 名	24 名

E: U16/U17 日本代表

U16 はアンダーカテゴリーの国際大会が初めてとなる選手で構成されるため、4~6 月は U16 アジア選手権に向けて選手の育成・強化を行った。U16 アジア選手権の最終結果は 4 位となり、2026 年度世界選手権の切符を獲得した。

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
男子 U16 日本代表 合宿 (4/25-4/29)	NTC	4 泊	5 日	6 名	19 名
男子 U16 日本代表 合宿 (6/11-6/15)	NTC	4 泊	5 日	7 名	12 名
男子 U16 アジア選手権大会 (7/3-7/20[試合:7/5-20]) ※事前合宿あり	タイ	17 泊	18 日	8 名	12 名
男子 U17 日本代表 合宿 (1/20-1/24)	NTC	4 泊	5 日	6 名	23 名
男子 U17 日本代表 合宿 (3/26-3/30)	NTC	4 泊	5 日	5 名	21 名

(2) 各カテゴリー日本代表チームの選手育成・強化および国際派遣事業 (女子)

A: 日本代表 (フル代表)

2028 ロサンゼルスオリンピックに向けた活動がスタートした。

2024-25 大同生命 SV. LEAGUE が 5 月第 1 週まで行われたため、一定の休息を挟み 5 月第 3 週より新監督・新スタッフによる新体制のもと日本代表活動を始動した。バレーボールネーションズリーグ (VNL) は予選ラウンド 9 勝 3 敗でファイナルラウンド進出を果たしたが、準決勝でブラジルにセットカウント 2-3、3 位決定戦でポーランドに 1-3 で敗れ、4 位で本大会を終えた。大会を通して若手有望選手を起用し、世界と戦えるチームを作り注力した。事業名(期間)	場所
バレーボールネーションズリーグ女子第 1 週 (6/4-6/8)	カナダ
バレーボールネーションズリーグ女子第 2 週 (6/18-6/22)	香港
バレーボールネーションズリーグ女子第 3 週 (7/9-7/13)	日本 (千葉県千葉市)
バレーボールネーションズリーグ女子ファイナルラウンド (7/23-7/27)	ポーランド (ウッチ)

8 月の世界選手権では前回 2022 年大会 (5 位) に続く決勝トーナメント進出の死守とメダルを獲得することを目指した。準々決勝でオランダにセットカウント 3-2 で勝利しベスト 4 位入り

を果たしたが、準決勝でトルコにセットカウント1-3、3位決定戦でブラジルに2-3で敗れ、最終順位4位で本大会を終えた。

事業名(期間)	場所
女子世界選手権(8/22-9/7)	タイ

選手育成のため世界選手権チームとは別に日本代表Bチームを結成して8月に韓国遠征を行い、若手有望選手に国際経験を積ませた。

事業名(期間)	場所
韓国招待試合(8/12-8/17)	韓国

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
女子日本代表 合宿(5/5-5/30)	NTC	25泊	26日	18名	36名
女子日本代表B 合宿(5/25-5/30)	愛知	5泊	6日	5名	13名
女子日本代表A・B 合宿(6/2-6/22) ※一部期間はBのみ	NTC	20泊	21日	18名	28名
女子日本代表 合宿(6/23-7/7)	NTC	14泊	15日	14名	16名
女子日本代表B 合宿(6/23-6/29)	鹿児島	6泊	7日	7名	21名
女子日本代表 合宿(7/14-7/18)	NTC	4泊	5日	12名	16名
女子日本代表 合宿(8/1-8/20)	NTC	19泊	20日	16名	17名
女子日本代表B 合宿(7/31-8/10)	NTC	9泊	10日	7名	15名
女子日本代表B 韓国遠征(8/10-8/18)	韓国	8泊	9日	9名	14名

B: ユニバ日本代表(大学卒業1年目と大学生を中心に構成される日本代表チーム)

7月にドイツで行われるワールドユニバーシティゲームズ(WUG)に向けて選手強化を図った。WUG直前にはフランクフルトで事前合宿を行った。WUGでは準優勝の成績を収めた。

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
女子ユニバ日本代表 合宿(5/26-5/30)	愛知	4泊	5日	8名	15名
女子ユニバ日本代表 合宿(7/4-7/8)	埼玉、NTC	5泊	6日	5名	12名
女子ユニバ日本代表 フランクフルト事前合宿(7/8-7/13)	ドイツ	5泊	6日	9名	12名
女子WUG(7/13-7/25 [試合:7/16-7/24])	ドイツ	12泊	13日	9名	12名
女子ユニバ日本代表 合宿(2/20-2/24) ※2027年大会に向けて	NTC	5泊	6日	9名	24名

C: U20/U21 日本代表

U21 世界選手権大会に向け、4～6月に選手選考、7月に大会直前合宿を行い、チームの強化を図った。U21 世界選手権の直前に現地で合宿を行い大会に臨んだ。決勝ではイタリアにフルセットの末に惜敗したが、銀メダルを獲得し、若手選手の経験、成長に繋がられた。

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
女子 U21 日本代表 合宿 (5/19-5/23)	愛知	4 泊	5 日	6 名	16 名
女子 U21 日本代表 合宿 (6/23-6/27)	群馬	4 泊	5 日	7 名	18 名
女子 U21 日本代表 直前合宿 (7/25-7/30)	神奈川	5 泊	6 日	8 名	12 名
女子 U21 世界選手権大会 (7/30-8/19 [試合 : 8/7-8/17])	インドネシア	13 泊	14 日	8 名	12 名
女子 U20 日本代表 合宿 (2/20-2/24) ※2026 年大会に向けて	NTC	4 泊	5 日	5 名	15 名

D: U18/U19 日本代表

U19 世界選手権大会に向け、4・5月に選手選考、6月に大会直前合宿を行いチームの強化を図った。トルコで計画していた大会直前合宿を中東情勢に伴い中止し、急遽セルビアで行った。大会の最終順位は7位となった。

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
女子 U19 日本代表 合宿 (4/21-4/25)	NTC	4 泊	5 日	9 名	19 名
女子 U19 日本代表 合宿 (5/11-5/14)	千葉	3 泊	4 日	7 名	23 名
女子 U19 日本代表 直前合宿 (6/23-6/26)	大阪	3 泊	4 日	7 名	13 名
女子 U19 世界選手権大会 (6/28-7/14 [試合 : 7/3-7/13])	クロアチア /セルビア	19 泊	20 日	8 名	13 名
女子 U18 日本代表 合宿 (12/4-12/8) ※2026 年大会に向けて	NTC	4 泊	5 日	7 名	24 名
女子 U18 日本代表 合宿 (2/14-2/18)	NTC	4 泊	5 日	6 名	25 名
女子 U18 日本代表 合宿 (3/17-3/21)	東京	4 泊	5 日	7 名	21 名

E: U16/U17 日本代表

U16 はアンダーカテゴリーの国際大会が初めてとなる選手で構成されるため、4～6月はU16 アジア選手権大会に向けて選手の育成・強化を行った。中東情勢に伴いヨルダンで開催されるU16 アジア選手権大会が7月から11月に延期となり、選手選考を再度行うことになった。U16 アジア選手権では4位となり、2026年U17世界選手権大会の出場権獲得は死守することができた。

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
女子 U16 日本代表 合宿 (4/14-4/18)	NTC	4 泊	5 日	5 名	23 名
女子 U16 日本代表 合宿 (5/19-5/23)	滋賀	4 泊	5 日	6 名	18 名
女子 U16 日本代表 合宿 (6/8-6/12)	愛知	4 泊	5 日	6 名	13 名
女子 U16 日本代表 合宿 (9/22-9/26)	NTC	4 泊	5 日	6 名	21 名
女子 U16 日本代表 直前合宿 (10/20-10/26)	NTC	6 泊	7 日	6 名	12 名
女子 U16 アジア選手権大会 (10/26-11/10 [試合 : 11/1-11/8])	ヨルダン	15 泊	16 日	7 名	12 名
女子 U17 日本代表 合宿 (2/8-2/12) ※2026 年大会に向けて	NTC	4 泊	5 日	4 名	21 名
女子 U17 日本代表 合宿 (3/16-3/20)	NTC	4 泊	5 日	5 名	25 名

2-1-2. 競技力向上事業及び競技力向上に係る国際大会派遣事業（ビーチバレーボール）

(1) 各カテゴリー日本代表チームの選手育成・強化および国際派遣事業（男子/女子）

A: 男子・女子日本代表チーム（フル代表）

ビーチバレーボール男女日本代表監督に就任したスティーブ・アンダーソン監督の下、2028 年ロサンゼルスオリンピックに向けた 4 年計画の強化戦略プラン及び 2032 年ブリスベンオリンピックに向けた 8 年計画の強化プランを新たに策定し強化を推進する。

2025 年度は新たに導入する強化システムの基盤を構築する。日本代表選手に対しては、国際大会及び事前合宿派遣サポートに加え、スポーツ医・科学を用いたサポートも行う計画をしており、更に 11 月にオーストラリアで開催されるビーチバレーボール世界選手権大会の出場権を男女で獲得することを目標に掲げ、戦略的な大会派遣と準備を行う。

事業名(期間)	場所
2025 ビーチバレーボール世界選手権大会 (11/14-23)	オーストラリア
バレーボールワールドビーチプロツアー（通年）	世界各地
2024 アジアビーチバレーボール選手権大会（未定）	未定
AVC ビーチツアーオープン（通年）	アジア各地

2025 ビーチバレーボール世界選手権大会 柴麻美・村上礼華ペア 17 位

VW ビーチプロツアー ELITE 女子：柴・村上ペア 25 位 2 回・21 位 2 回・19 位 2 回

ELITE 女子：松本恋・松本穂ペア 25 位 1 回・19 位 1 回

2024 アジアビーチバレーボール選手権大会 未開催

AVC ビーチツアーオープン 女子：柴・村上 3 位 松本・松本 1 位

B: U21/ユニバ日本代表

2025 年度は U21 世代の国際大会と、2013 年にカザンで開催された第 27 回ユニバーシアード競技大会以来 15 年振りに正式競技となるユニバーシティーゲームズが開

催される。2023 年度に立ち上げたアンダーエイジカテゴリー強化事業を軸として、各カテゴリー大会に向けてビーチバレーボール練習会の開催や強化合宿を開催して継続的な選手育成・強化を実施する。

事業名(期間)	場所
2025 ビーチバレーボール U21 世界選手権大会 (9/16-21)	ジョージア
2025 ビーチバレーボール U21 アジア選手権大会 (未定)	未定
FISU ワールドユニバーシティゲームズ (7/21-25・ラインルール)	ドイツ

2025 ビーチバレーボール U21 アジア選手権大会

男子：源田・高内ペア 17 位 柏谷・柏木ペア 17 位

女子：宇都木・森ペア 4 位 森川・矢田ペア 9 位

2025 ビーチバレーボール U21 世界選手権大会

女子：宇都木・森ペア 17 位 森川・矢田ペア 37 位

FISU ワールドユニバーシティゲームズ

男子：水町・黒澤ペア 17 位

女子：宇都木・森川ペア 9 位

2025 ビーチバレーボール U18 世界選手権大会

女子：宇都宮・沢野ペア 17 位

※U18 世界選手権大会は急きょ大会開催が決定したため事業計画には記載無し

C：高校選抜（発掘育成事業）

公益財団法人全国高等学校体育連盟及び一般社団法人日本ビーチバレーボール連盟との連携を図り、ビーチバレーボール高校選抜合宿を計画する。

8 月：JVA 全国高校選抜男女ビーチバレーボールチーム海外遠征を実施 男女 10 名参加

※フィリピン・ヌバリで実施

12 月：全国アンダーエイジカテゴリービーチバレーボール男女選抜強化合宿 兼 日本代表選手第 2 次選考会を実施

12 月 11 日～12 月 14 日 トヨタ自動車衣浦工場ビーチバレーボールコート男女 32 名

12 月 25 日～12 月 28 日 川崎マリエンビーチバレーボールコート 男女 6 名

2-1-3. 国際大会開催事業

(1) バレーボールネーションズリーグ 2025 女子大会

開催期間：7 月 9 日(水)～13 日(日)

開催都市：千葉県千葉市（千葉ポートアリーナ）

出場チーム：ブラジル、フランス、ポーランド、ブルガリア、日本、韓国

- (2) バレーボールネーションズリーグ 2025 男子大会
開催期間：7月16日(水)～20日(日)
開催都市：千葉県千葉市(千葉ポートアリーナ)
出場チーム：日本、アルゼンチン、アメリカ、ドイツ、ブラジル、トルコ
- (3) 2025 バレーボール男子世界選手権壮行試合 日本対ブルガリア
開催期間：9月2日(火)～3日(水)
開催都市：東京都
- (4) 2025 バレーボール男子世界選手権壮行試合 日本対イタリア
開催期間：9月6日(土)～7日(日)
開催都市：千葉県

2-1-4. 競技力向上にかかわるバレーボール技術・戦術の調査研究及びスポーツ医・科学の調査研究事業

- (1) 日本代表選手の科学的測定評価、測定結果に基づくトレーニング処方立案とサポート
- (2) 日本代表チームとの対戦が想定される外国チームの戦力掌握
- (3) トレーナーおよびアナリストの育成と教育及び日本代表チームへの帯同と日本代表チームが利用する機材およびデータの管理・運用
 - ・アナリスト育成セミナー【2026年2月16日～18日 実施】
 - ・アンダーエイジカテゴリー日本代表選手体力測定【2025年10月～2026年3月】
- (4) 日本代表チームにドクターを派遣し、歯科・整形外科診断を中心に選手の健康維持と怪我防止及び傷害発生時の対処、薬剤の手配
 - ・男女日本代表選手へのメディカルチェック【2025年5月実施】
- (5) アンチ・ドーピングの啓発を含むスポーツ・インテグリティの向上、講習会の実施
- (6) 海外遠征中の食中毒や感染症対策の実施と安心・安全なトレーニング環境を創る
 - ・医師やトレーナーによる帯同報告会【2025年12月実施】

2-1-5. 将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業

- (1) 全国小学生・中学生・高校生長身選手の発掘育成事業

将来有望な長身選手の発掘、育成、強化を目的に、公募および各ブロックからの推薦によるオーディションを行い、選抜した有望選手の育成強化合宿を実施する。そして、合宿に参加した有望選手のリストを小学生・中学生から高校生までもデータ化し、選手情報を経年的に強化委員会等で共有する。また、年1回各カテゴリー(中学生・高校生)別の有望選手達による選抜チームを編成し、海外で外国人チームとの国際試合を行い、国際的に通用する選手の育成を行うとともに、将来のオリンピックを見据えたターゲット選手を選定し、一貫した選手の育成を実践。

A：小学生エリートアカデミーオーディション合宿

日時：2025年8月14日(木)～16日(土)2泊3日

- 場所：味の素ナショナルトレーニングセンター
 人数：小学5・6年 男子29名、女子30名 *スタッフ：15名
- B：小学生エリートアカデミー年末合宿
 日時：2025年12月25日(木)～12月28日(日)3泊4日
 場所：和歌山県田辺市 田辺スポーツパーク
 人数：小学5・6年 男子16、女子14
 中学1・2年 男子11、女子8 *スタッフ：15名
- C：全国中学バレーボール選抜強化(一次)合宿
 日時：2025年10月9日(木)～12日(日)3泊4日
 場所：岩手県紫波町「オガールアリーナ」「紫波町総合体育館」
 人数：中学2・3年 男子30名、女子30名 *スタッフ：27名
- D：全国中学バレーボール選抜強化(二次)合宿
 日時：2026年1月8日(木)～11日(日)3泊4日
 場所：味の素ナショナルトレーニングセンター
 人数：中学2・3年 男子12名、女子12名 *スタッフ：17名
- E：中学選抜海外遠征
 日時：2026年2月22日(日)～3月3日(火)9泊10日
 場所：味の素ナショナルトレーニングセンター・イタリア(ポルデノーネ)
 人数：中学2・3年 男子12名、女子12名 *スタッフ：12名
- F：全国中学長身者合宿
 日時：2026年2月5日(木)～8日(日)3泊4日
 場所：味の素ナショナルトレーニングセンター他
 人数：中学1・2年 男子30名、女子27名 *スタッフ：19名
- G：全国高校選抜候補一次合宿(全国9ブロック高校生長身者合宿)
 日時：2025年8月22日(金)～9月2日(火)*各ブロック2泊3日
 場所：全国9ブロック施設にて開催
 人数：各ブロック高校1・2年 男子16名、女子16名
- H：高校選抜候補第二次合宿・全日本ジュニアオールスタードリームマッチ
 日時：2026年2月12日(金)～14日(日)2泊3日
 場所：エスフォルタアリーナ八王子
 人数：高校1・2年 男子48名、女子48名 *スタッフ：51名
 中学3年 男子4名、女子4名
- I：高校選抜候補第三次合宿
 日時：2026年3月17日(火)～21日(土) 4泊5日
 場所：墨田区総合体育館
 人数：高校1・2年 男子23名、女子24名 *スタッフ：21名

2-1-6. 競技・練習環境の整備、情報発信

- (1) 味の素ナショナルトレーニングセンター バレーボール専用コート設備

- ① 備品のメンテナンス
- ② 備品の新規購入
- (2) 川崎マリエンビーチバレーボールコート設備
 - ① 強化戦略プランでのマネージメントの実行
 - ② 情報戦略分野での継続支援
 - ③ スポーツ医・科学情報分野での人的リソース配備
 - ④ 各種研修会による教育サポート
- (3) ビーチバレーボールアスナビ

ビーチバレーボールの普及を目的に、ビーチバレーボール版アスナビを新規に立ち上げる。卒業後、競技継続を希望する学生に対して就職支援を行い、卒業後も競技を継続できる環境構築を目指す。

2-2. 競技普及「競技に携わる多くの仲間とのつながり拡大」

2-2-1. 競技人口拡大のための重点施策

(1) 競技会開催事業

「JAPAN バレーボール宣言」の理念とビジョンに基づき、“誰もが・いつでも・どこでも”バレーボールを身近に心から楽しめる環境を提供し、バレーボールに関わるすべての人々を支え、バレーボールが生涯にわたって生活の一部となり、より豊かなスポーツ文化を育むことを目指して各種国内競技会を開催。

A：6人制

大会名	日程	開催地
令和7年度天皇杯・皇后杯 JVA 全日本バレーボール選手権大会		
都道府県ラウンド	4/27～7/27	全国各地
ブロックラウンド	9/6～21	全国各地
ファイナルラウンド	12/11～14	東京都
	12/20～21	東京都
JVA 第16回全国バレーボール総合リーグ優勝大会		
ブロックラウンド	4～12月	全国各地
セミファイナルラウンド	2026年1月～3月	全国各地
ファイナル	2026年3/7	京都府
黒鷲旗 JVA 第73回全日本バレーボール選抜大会	5/3～6	大阪府（大阪市）
全国高校総体 男子	7/29～8/1	島根県（松江市）
第52回全国高等学校定時制・通信制大会	8/6～9	神奈川県（平塚市）
全国高校総体 女子	8/6～9	岡山県（岡山市）
JVA 第45回全日本バレーボール小学生大会		
男子	8/4～7	東京都、千葉県、神奈川県

	女子		
	混合		
2025 ファイテン ジャパンクラブカップ JVA 第 44 回全日本バレーボールクラブ選手権大会 女子	8/8~11	福岡県 (福岡市)	
2025 ファイテン ジャパンクラブカップ JVA 第 44 回全日本バレーボールクラブ選手権大会 女子	8/8~11	埼玉県 (熊谷市、本庄市)	
第 55 回全日本中学校選手権大会	8/17~20	長崎県 (大村市、諫早市)	
第 60 回全国高等専門学校体育大会	9/5~7	鹿児島県 (薩摩川内市)	
JVA 第 28 回全国バレーボールヤングクラブ大会	9/20~21	大阪府、和歌山県	
JVA 第 28 回全国バレーボールヤングクラブ大会 男子	9/20~21	大阪府、和歌山県	
第 79 回国民スポーツ大会	9/28~10/1	滋賀県 (草津市、守山市、近江八幡市)	
ミキプルーンスーパーカレッジバレー2025 秩父宮賜杯 第 78 回全日本バレーボール大学選手権大会 男子	12/1~7	東京都、埼玉県	
ミキプルーンスーパーカレッジバレー2025 秩父宮妃賜杯 第 72 回全日本バレーボール大学選手権大会 女子	12/1~7	東京都、埼玉県	
第 39 回全国都道府県対抗中学大会	12/25~28	大阪市	
春の高校バレー JVA 第 78 回全日本バレーボール高等学校選手権大会	2026/1/5~7 1/10~11	東京都 (渋谷区)	

B : 9 人制

大会名	日程	開催地
JVA 第 11 回全日本バレーボールトップリーグ 9 人制		
女子ファーストディビジョン レギュラーラウンド	5/31~6/29	岐阜県、大阪府、広島県、宮崎県
女子ファーストディビジョン ファイナルラウンド	7/19~8/3	兵庫県、長野県
女子ファーストディビジョン 入替戦	12/13	岐阜県 (大垣市)
男子ファーストディビジョン レギュラーラウンド大阪	9/13~14	大阪府 (大阪市)
男子ファーストディビジョン レギュラーラウンド広島	10/11~13	広島県 (福山市)
男子ファーストディビジョン レギュラーラウンド宮城	12/12~13	宮城県 (柴田郡柴田町)
男子ファーストディビジョン ファイナルラウンド* 宮城	12/14	宮城県 (柴田郡柴田町)
男子ファーストディビジョン入替戦	12/14	宮城県 (柴田郡柴田町)
JVA 第 77 回全日本バレーボール実業団選手権大会 9 人制 女子	-	中止
JVA 第 78 回全日本バレーボール実業団選手権大会 9 人制 男子	7/24~27	福島県 (福島市、二本松市)
2025 ファイテン ジャパンクラブカップ JVA 第 44 回全日本バレーボールクラブ選手権大会 9 人制 男子	7/31~8/3	京都府 (向日市、京都市)
2025 ファイテン ジャパンクラブカップ JVA 第 44 回全日本バレーボールクラブ選手権大会 9 人制 女子	8/14~17	三重県 (津市)

日本スポーツマスターズ 2025 愛媛大会	9/20～23	愛媛県(松山市、砥部町、伊予市、西条市、四国中央市)
JVA 第 24 回全国バレーボール社会人優勝大会 9 人制東ブロック	10/23～26	北海道 (帯広市、芽室町)
JVA 第 24 回全国バレーボール社会人優勝大会 9 人制西ブロック	10/3～6	兵庫県 (加古川市)
JVA 第 95 回全日本バレーボール選手権大会 9 人制 男子	11/20～23	大阪府 (大阪市)
JVA 第 94 回全日本バレーボール選手権大会 9 人制 女子	11/21～24	徳島県 (鳴門市、板野郡)

C : ソフトバレーボール

大会名	日程	開催地
JVA 第 33 回全国ソフトバレーボールフェスティバル シルバー山口	10/3～5	山口県 (山口市)
JVA 第 27 回全国ソフトバレーボールフェスティバル レディース函館	10/17～19	北海道 (函館市)
JVA 第 14 回全国ソフトバレーボールフェスティバル スポレク京都	11/21～23	京都府 (京都市)
JVA 第 10 回全国ソフトバレーボール フェスティバル	中止	

D : 8 人制

大会名	日程	開催地
ヴィンテージ 8' s JVA 第 16 回全国バレーボール交流大会 8 人制	10/31～11/2	静岡県 (御殿場市)

E : ビーチバレーボール

ジャパンビーチバレーボールツアー2025

2025 年度も各分野の専門委員を含めたツアー実行委員会を設置し、新規で開催予定の北海道大会(エスコンフィールド HOKKAIDO 会場)を実施、都市型大会の開催に関しては、昨年に引き続きグランドスラム大会と称して、その他オープン大会との差別化を図り以下の通り大会を開催する。ツアー各大会を活用し、他競技とのコラボレーション大会開催、環境問題や社会貢献活動の取り組みにも更に力を入れる。

大会名	開催期間	開催場所
平塚大会	4/27～29	神奈川県平塚市・湘南ベルマーレひらつかビーチパーク
大阪大会	5/9～11	グランフロント大阪うめきた広場
都城大会	6/6～8	宮崎県都城市・霧島ファクトリーガーデン
立川立飛	6/28～29	東京都立川市 TACHIHI BEACH(エキシビジョンマッチ)
横浜大会	7/4～6	神奈川県横浜市・横浜赤レンガ倉庫
青森大会	8/30～31	青森県青森市・青森駅前ビーチ

北海道大会	9/6～8	北海道北広島市・エスコンフィールド
名古屋大会	9/19～21	愛知県名古屋市・名城公園 TONARINO
松山大会	10/25～26	愛媛県松山市・松山城城山公園堀之内

第79回国民スポーツ大会バレーボール競技会・ビーチバレーボール種目(正式競技)

- ・日程：令和7年9月6日～9日
- ・開催場所：滋賀県長浜市

日本選手権

大会名称	開催日	開催都市
アクティオ杯ビーチバレーボールジャパンカレッジ 2025 JVA 第37回全日本ビーチバレーボール大学選手権大会	8/5～7	神奈川県 川崎市
ビーチバレーボールジュニア JVA 第24回全日本ビーチバレーボール高等学校選手権大会 男子	8/7～10	大阪府 阪南市
マドンナカップ in 伊予市 JVA 第29回全日本ビーチバレーボール高等学校選手権大会 女子	8/7～10	愛媛県 伊予市
ビーチバレージャパン JVA 第39回全日本ビーチバレーボール選手権大会 男子	8/11～13	神奈川県 藤沢市
湘南藤沢カップ JVA 第16回全日本ビーチバレーボールU15選手権大会 4人制	8/16～17	神奈川県 藤沢市
ビーチバレージャパンレディース JVA 第36回全日本ビーチバレーボール選手権大会 女子	8/22～24	大阪府 泉南郡岬町
HEKINAN マンモスカップ JVA 第5回全日本ビーチバレーボールU15選手権大会	8/23～24	愛知県 碧南市

その他主要大会

大会名称	開催期間	開催場所
ビーチバレーボールNEXT2025 JVA 第7回全日本ビーチバレーボールU-23男女選抜優勝大会	7/24～27	兵庫県 明石市
川崎市長杯 JVA 第17回ビーチバレーボール大会	10/11～12	神奈川県川崎市

(2) 指導者養成事業

日本バレーボール協会が養成する「指導者」は、スポーツの価値やスポーツの未来への責任を自覚し、プレーヤーズセンタードの考え方のもとに暴力やハラスメントなどあらゆる反倫理的行為を排除し、常に自らも学び続けながらプレーヤーの成長を支援することを通して、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることに貢献できる指導者の養成を目的とする。

A：JSP0 公認スポーツ指導者資格・バレーボールコーチ養成講習会

■JSP0 公認スポーツ指導者（競技別指導者資格）専門科目認定講習会

- ・スタートコーチ : 開催せず
- ・コーチ1 : 都道府県スポーツ協会と都道府県協会で実施
- ・コーチ2 : 開催せず
- ・コーチ3 : JVA 指導者養成委員会で実施 2025年8月6日～9日
- ・コーチ4 : JVA 指導者養成委員会で実施 2025年8月6日～10日

B：JVA 公認指導者養成講習会

- ・準指導員（コーチ1） : 全国学生対象コーチ1養成講習会 2026年2月25日～27日
- ・準指導員（コーチ1） : クラブ連盟対象コーチ1養成講習会 2025年10月11日～13日
- ・準指導員（コーチ1） : 全国小学生指導者第二次講習会 2025年9月27日～28日
 (第一次+第二次講習会終了で準指導員)
- ・ソフトバレーボール・アクティブリーダー養成講習会 2025年9月13日～14日
- ・ソフトバレーボール・マスターリーダー養成講習会 2025年6月21日～22日
- ・ソフトバレーボール・マスターリーダー更新研修会 各都道府県で開催

C：JVA 公認講師認定講習会

■JSP0 公認スポーツ指導者・JVA 公認指導者の養成講習会を開催するための講師育成

- ・公認講師認定講習会 2025年12月13日

D：指導者資格更新研修会

■JVA 独自指導者研修会（指導スキルアップ研修・資格更新研修）

- ・都道府県別指導者研修会 各都道府県で開催
- ・公認指導者研修会（公認講師、コーチ1～4対象）
 [大阪会場] 2025年10月25日～26日 [東京会場] 2026年3月1日
- ・全国中学生バレーボール指導者研修会 各都道府県で開催
- ・日本実業団バレーボール連盟全国指導者研修会 2025年11月29日～30日
- ・クラブ連盟対象指導者研修会 開催せず
- ・ソフトバレーボール・アクティブリーダー研修会 2025年6月1日
- ・ビーチバレーボール指導者研修会 2025年12月11日～14日

(3) 審判員養成事業

国際大会における国際審判員の派遣および国内競技会の審判員派遣とともに、円滑な競技会運営のために、6人制・9人制・ビーチバレーボールの審判技術向上と審判員の養成・育成を目的に、主な事業を下記により開催した。

A：審判技術強化事業

■国際ナショナルレフェリー技術強化事業

事業名	期日	開催地等
海外遠征派遣事業	9/2～7	高校選抜遠征に帯同 (インドネシア、タイ)

■ナショナルレフェリー技術強化事業

6人制

事業名	期日	開催地等
1) トップレフェリー技術強化事業		
関東・東海・関西大学男子1部リーグ (春季・秋季)	4月～5月 9月～10月	
S1レフェリー認定講習会	開催せず	
S1・S2レフェリー技術強化事業	5/3～6 8/9～14	大阪 黒鷲旗 大阪 KDU サマーカップ
S3レフェリー技術強化事業	5～8月	各ブロックへの講師派遣
2) Eスクール(語学研修)	(実技) 5月・8月・3月 (講義) 524.25	東海・九州・近畿
3) 6人制A級審判員技術強化事業	11/26 12/2～4	Web 東京 スーパーカレッジ 男女大学選手権大会
4) A級審判員資格取得審査講習会	-	令和7年度は実施せず
5) A級候補審判員講習会(A/Cキャンプ)	8/9～12	大阪 近畿大学
6) B級レフェリーキャンプ	8/12～14	大阪 近畿大学

9人制

事業名	期日	開催地等
1) トップレフェリー技術強化事業		
N1レフェリー認定事業	5/2～4	大阪
N2レフェリー技術強化事業	5～8月	各ブロックへの講師派遣
2) 9人制A級審判員技術強化事業	実施せず	
3) 9人制レフェリー育成事業	7/5～6 10/11～13	静岡 福岡
4) 9人制特別A級審判員資格取得審査講習会	9/13～15	大阪
5) 9人制特別A級候補審判員講習会	-	令和7年度は実施せず
6) 9人制B級審判員講習会(B級キャンプ)	5/3～4	大阪

ビーチバレーボール

事業名	期日	開催地等
1) トップレフェリー技術強化事業		
B1 レフェリー認定事業	4/19～20	静岡県浜松市
B2 レフェリー技術強化事業	5～8月	各ブロックへの講師派遣
2) Eスクール（語学研修）	6人制に準ずる	
3) ビーチバレーボールA級審判員技術強化事業	7/25～27	全日本ビーチバレーボールU-23男女選抜優勝大会
4) ビーチバレーボールレフェリー育成事業	7/25～27	全日本ビーチバレーボールU-23男女選抜優勝大会

B：審判研修事業

事業名	期日	開催地等
1) 全国講習会		
全国6人制審判講習会	令和8年 3/20	東京（慶應義塾中等部）
全国9人制審判講習会	令和8年 3/29	大阪（パナソニックブルーベルズ）
全国ビーチバレーボール審判講習会	令和8年 3/21	神奈川（川崎マリエン）
全国ラインジャッジクリニック	5/2～4	大阪 黒鷲旗 全日本男女選抜大会
2) ブロック講習会		
ブロックA級審判員講習会 （6人制・9人制・ビーチ）	-	各ブロックへの講師派遣
競技会事前講習会	-	各開催地
3) レフェリーインストラクター講習会	令和8年 2/23	合同部会時

(4) 競技者拡大事業

近年の急激な競技人口の減少は憂慮すべき事態であり、すべてのカテゴリーにおいて減少している。競技人口を増やすことは喫緊の課題であるため、競技者拡大に向けた事業の検証・整理を行い、現行の事業の継続、リニューアルも含めた計画（中期・長期含む）を策定した。また、競技者の更なる拡大・競技の継続に向け、小学生・中学生におけるバレーボールプログラムの充実・拡大を図るため今年度は以下の事業を実施した。

A：SVリーグ選手と一緒にバレーボール教室

小学生のバレーボール未経験者及び初心者を対象に、Vリーグ選手（含OB・OG）が参加してバレーボール教室を開催。

- ・①2025年9月14日 沖縄県 八重瀬町具志頭社会体育館
派遣講師：西 知恕氏、西村 信氏
参加人数：経験者 67名、未経験者 10名、スタッフ 3名

- ・②2025年9月20日 鳥取県 鳥取県立米子産業体育館
派遣講師：落合 一貴氏、峯村 沙紀氏
参加人数：経験者54名、未経験者5名、スタッフ3名

B：中学校ビギナー選手バレーボール大会推進

中学1年生からバレーボールを始めた選手への競技継続のモチベーションの促進とともに、競技の魅力及び競技力の向上を目的とするためのバレーボール教室及び大会(全国)を開催。

- ・2025年11月8日～3月21日
- ・全国10の都道府県10会場で開催
(北海道、富山、宮城、島根、岐阜、沖縄、東京、和歌山、滋賀、茨城)
- ・参加チーム：男子117チーム、女子328チーム(10会場計)

C：全国小中一貫バレーボール教室

小・中学生合同のバレーボール教室を実施する。一貫指導の充実とバレーボール人口の増加を図ることを目的として開催。

- ・2026年1月24日 奈良県 生駒市体育協会総合SC
- ・派遣講師：大竹 里歩氏 工藤 憲氏
- ・参加人数：小学生67名、中学生37名

D：幼稚園・保育園等でのソフトバレーボール(風船等)実践

ソフトバレーボールを通して、幼児期にバレーボールの楽しさを伝えるとともに、ボールを使ったコーディネーショントレーニングを実践し、幼少期の運動能力・発育を促す事業として、全国5ブロックで開催。

- ・2025年10月29日～1月18日までの5会場
- ・全国5ブロックで開催(関東、北信越、中国、四国、九州)
- ・幼稚園・保育園児参加者 5会場計 228名

E：アンダー10大会促進

小学4年生以下を対象としたチーム内でレギュラー以外の選手の競技継続を目的とした大会を開催し、ボール接触機会と競技の楽しさを味わってもらうとともに、次カテゴリーでのバレーボール継続を促進。

- ・2025年6月15日～2026年1月18日までの30会場
- ・全国30都道府県で開催
- ・参加チーム 計1,601チーム 参加者 計12,912名

(5) 医事関連事業

- ・競技の高潔性維持とアンチ・ドーピングの遵守
公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構(JADA)とのさらなる連携を図り、ドーピング

検査の実施や教育・啓発活動を推進する。特に、日本代表選手（アンダーカテゴリーを含む）やトップリーグの選手・チームスタッフに対して講習会を中心とした教育活動を行い、バレーボール界における更なるドーピング知識の浸透を図った。

- ・ マルフアン症候群への対応検討を開始し、ガイドラインの作成を開始した。

2-3. マーケティング「ファンや企業の皆様へ向けた新たな価値の発掘・提供」

2-3-1. 新たな価値を創造するための重点施策

(1) 代表ユニフォームや大会看板以外の商材開発

- ・ 日本代表肖像活用の積極的な推進

新たなライセンスグッズ（例 選手顔写真カード入り菓子、飲料）の販売

(2) 新しい競技イメージの構築

- ・ 2026年開催の天皇杯・皇后杯のリブランディングに着手。
- ・ SVリーグとの共同パートナーとして、大同生命、MUFGなどの協賛を実現。

(3) マーケティング機会の創出

- ・ バレーボール男子世界選手権壮行試合や、有料での公開練習、紅白戦の公開などによりファンとの接触機会を増やし、協賛企業の賛同も得ることが出来た。

(4) ファンマーケティングの拡大

- ・ バレとも会員向けに、チケット先行発売、限定グッズ販売、イベント参加などを企画・立案し、ファン向け体験価値を向上することで有料会員数の増加に寄与。

2-4. 社会貢献「豊かな社会の実現に向けた貢献活動」

2-4-1. 豊かな社会の実現に貢献するための重点事業

SDGs 関連事業（国連グローバル・コンパクト関連事業）

(1) SDGs 関連事業（国連グローバル・コンパクト関連事業）

- ・ あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進するという観点で、自治総合センターと JVA が共催する宝くじの社会貢献広報事業として「宝くじスポーツフェアドリーム・バレーボール（元日本代表女子選手が参加）の開催に協力した。

都道府県	市区町村	会場名	参加者・観客者 (人)	開催日
茨城県	古河市	古河市イーエスはなもも体育館	850	9月27日(土) 9月28日(日)
新潟県	三条市	三条市体育文化会館	679	R8 1月17日(土) 1月18日(日)
石川県	白山市	松任総合運動公園体育館	1,200	7月26日(土) 7月27日(日)

静岡県	袋井市	さわやかアリーナ袋井市総合体育館	1,500	11月1日(土) 11月2日(日)
兵庫県	西脇市	西脇市総合市民センター	868	12月13日(土) 12月14日(日)
福岡県	春日市	春日市総合スポーツセンター	1,000	R8 2月14日(土) 2月15日(日)
鹿児島県	指宿市	指宿総合体育館	760	11月22日(土) 11月23日(日)
7県		7団体	6,857	

(2) アジア貢献、国際交流事業

- ・今年度は、10月26日(日)横浜市平沼記念体育館でアジアスポーツフェスタ2025が開催され、元モンテリオールオリンピック女子バレーボールチームの有志選手(7名)が参加し、ソフトバレーボールのボールを使用してバレーボールの試合や襷リレーの障害物競走などスポーツを通して交流を図った。

(3) 災害復興支援事業

- ・今年度は実績なし。

(4) 環境保護活動

■脱炭素化(各事業における炭素排出量の削減)カーボンニュートラルマッチ(水素カー)

- ①ジャパンビーチバレーボールツアー 第2戦グランドスラムグランフロント大阪大会
2025年5月9日(金)～11日(日) 会場: グランフロント大阪うめきた広場(大阪府大阪市)
- ②ジャパンビーチバレーボールツアー 第5戦グランドスラム横浜赤レンガ倉庫大会
2025年7月4日(金)～6日(日) 会場: 横浜赤レンガ倉庫(神奈川県横浜市)
- ③ジャパンビーチバレーボールツアー
第7戦グランドスラムエスコンフィールドHOKKAIDO大会
2025年9月5日(金)～9月7日(日) 会場: HOKKAIDO BALLPARK F VILLAGE

■環境保護啓発ポスター掲載

- ①令和7年度天皇杯・皇后杯JVA全日本バレーボール選手権大会
2025年12月11日(木)～21日(日) 会場: 東京体育館・京王アリーナTOKYO
- ②JVA全日本バレーボール選手権大会9人制男子・女子
男子: 2025年11月20日(木)～23日(日) Asueアリーナ大阪
女子: 2025年11月21日(金)～24日(月) アミノバリューホール(徳島県)
- ③全日本バレーボール大学選手権大会男子・女子
2025年12月1日(月)～7日(日) 大田区総合体育館他(東京都)

■清掃活動・クリーンアップ活動

①ビーチバレージャパンレディース

JVA 第 36 回全日本ビーチバレーボール選手権大会女子

2025 年 8 月 22 日（金）～8 月 24 日（日）

会場：せんなん里海公園ビーチバレー競技場（大阪府泉南郡岬町淡輪地先）

② ジャパンビーチバレーボールツアー 第 1 戦平塚大会

2025 年 4 月 27 日（日）～4 月 29 日（火・祝）

会場：湘南ベルマーレひらつかビーチパーク（神奈川県平塚市）

③ ジャパンビーチバレーボールツアー 第 6 戦青森大会

2025 年 8 月 30 日（土）～8 月 31 日（日）

会場：あおもり駅前ビーチ（青森県青森市）

2-5. 組織運営「組織改革による、誠実で信頼される組織運営と全国ネットワークの連携強化」

2-5-1. 成長の推進力となる組織運営の実現に向けた重点事業

(1) ガバナンス関連事業

- ・社会規範・要請（関連団体含む規定・制度・運営のチェック）では、加盟団体規程に基づいて、第 1 回加盟団体代表委員総会を、6 月 27 日（金）に対面で、第 2 回は 2026 年 2 月 27 日（金）にオンラインで会議を開催した。
- ・加盟団体規程により加盟団体が提出すべき書類について、4 半期ごとシステム上で確認し、都度書類提出の依頼を行った。
- ・令和 7 年度スポーツ団体ガバナンスコード適合性審査結果について、すべての審査項目が「適合」となり、審査所見において当該審査の好事例が 5 項目あった。
- ・危機管理規程の策定とマニュアルの作成を依頼し、2026 年度には各都道府県協会の HP に掲される予定である。
- ・JAPAN バレーボール WAY（行動規範）に沿って事務局全体で誠実かつ公平・公正な行動の実践を図った。
- ・健全な財政体質の構築では、公益会計基準に基づく特定費用準備資金の活用による中長期的な資金計画を策定し、安定的な財務体質の構築を図った。
- ・情報保護、管理体制の見直し（セキュリティ強化、責任体制の明確化、研修の実施による意識向上）においては、JVA の課題であるガバナンスやセキュリティの改善を図るために 2 名の外部のアドバイザーと契約し、2026 年度から具体的に進めていく。

(2) 人財開発関連事業

- ・JVA の人員計画について、各部署の業務の棚卸と業務の遂行に適正な人数について 2026 年度に会議を設けて議論し、人事制度についても合わせて検討することを確認した。
- ・メンター制度の導入と定着（人員定着化を見据えた活動）については継続課題とする。

(3) マネージメント関連事業

- ・収支均衡（定常事業での全体収支均衡の実現）および財務体質改善（赤字体質の脱却）においては、管理会計システムに導入により決算見込の精緻化を図り、収支均衡対策（特定費用準備資金の活用）を実施し、財務基準をクリアすることができた。
- ・計画的、戦略的な投資（中長期発展を見据えた戦略投資の実行）では、改めて中期経計画を踏まえた事業計画策定を徹底するとともに、予算策定時に各部署から実施希望事業および希望予算額、優先順を集約する形に整理した。各年度の予算を協会全体の戦略、方針に合わせて編成した、計画的、戦略的な投資につなげられるよう下地を整えることができた。
- ・加盟団体支援（自立的な運営のサポート、地域共生の実現）については、加盟団体代表委員総会や全国ブロック理事長会を通じた各地の課題集約に努めてきた。加えて、加盟団体連携会議を定期的で開催することにより、情報交換を行う会議体を定着させることができた。今後は会議体で扱う内容を見直したうえで課題へのフォローを実施していく。また、法人化が進行している状況を見て、法人運営における情報提供を行うべく準備を行った。次年度からは定期的な情報提供を行っていく。
- ・業務のスリム化とシステム化（現状の業務に対してPDCAサイクルを回し、システム化による負担とヒューマンエラーの削減）については、管理会計システム導入により、予算策定・進捗管理における集計作業の効率・精緻化と共に、債権債務管理の強化を図った。